

(第3種郵便物認可)

# じゅうたんからひもとく歴史…

## 文化談議 気軽に楽しんで

科学をテーマに専門家と市民が気軽に語り合  
り工房「祐」であった。じゅうたんから時代背  
う「サイエンスカフェinさんだ」が19日、弥  
景や文化をひもとく講演があり、約20人が聞き  
生が丘の商業施設「フローラ88」内にある手織  
入った。  
(井川朋宏)



じゅうたんについて語る杉村さん(奥)  
=弥生が丘、手織り工房「祐」

コーヒーなどを片手に科  
学について語らおうと、全  
国各地で開かれる。市内で  
は、市民ら約10人で行く  
「三田を知る会」(堺末廣  
代表)などが2009年か  
ら始め、3回目。同会が昨  
年開設した同工房では初め  
柄を壁に映して解説した。

### 「フローラ88」で 民博名誉教授が解説 サイエンスカフェ

16世紀にイランで作られた  
とされる豊臣秀吉の陣羽織  
などを例に、「最高級品が  
国内にも渡ったのは、ヨー  
ロッパの人が貿易促進やキ  
リスト教宣教を目的にした  
ためではないか」などと話  
した。  
また、都市では細かい柄  
であるのに対し、遊牧社会  
では単純で直接的な表現だ  
という。一方、中東の絵柄  
は「延々と同じリズムを繰  
り返す」として、音楽や美  
術にも共通することを紹介  
した。  
終了後は染め物「木版  
更紗」の講習会を開催。染  
織作家の藤原一藍さん、三  
木市川さんの指導で、参加者は  
生地を版木を押し込んで柄を入  
れ、色を塗る体験をした。  
丹波市氷上町の芦田千津さ  
んは「宗教や風土が柄に影  
響することがわかり、勉強  
になった」と話していた。